1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2277100919		
法人名	医療法人　社団　白梅会		
事業所名	グループホーム　ハーモニー	ユニット名	1階
所在地	浜松市西区大人見町3028-1		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPubli

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町４－１
訪問調査日	平成22年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・体力、脚力維持。またストレス緩和や気分転換のために毎日散歩に出かけている。
・月1回以上、外リハやドライブ、買い物、外食に出かけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人の運営する介護施設が広い敷地内に集合して整備されている。その中にある公園は、日常的な散歩場所で、リハビリをしたりハーモニカを披露するなど、利用者の憩いの場所となり交流している。利用者同士の関わりもあり、仲良く車椅子を押したり手を引いて歩くなどの支えあいもみられる。又、利用者が日常生活に積極的に関わる姿も多くみられ、その人ごとに自由に自立した生活を楽しんでいる。毎月、状況報告書が届けられ、年2回の家族会もあり、家族との協力体制が築かれている。職員は一人ひとりの理解に努め個別対応を重んじると共に、「生活のパートナー」としてさり気ないケアに取り組んでいる自由な雰囲気の漂う事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常の生活リズムを大切にし、職員と入居者が一緒に行動し生活している。 年間の介護目標も掲げ、それに沿うように努力している。	法人としての理念、グループホームとしての理念及び介護目標がつくられており、共有している。	法人の理念には明記されているが、地域密着型サービスについて、グループホームとしての理念に加えることを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回家族交流会を開催しており夏は地域の方も招待したり地域行事にも声をかけて頂いている。近隣に買物に出た時も理解し協力して頂いている。日常的な交流は難しいが月に1・2会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに来て頂いている。	法人として、自治会には入会しており、地域行事などの交流がある。グループホームの建物が近隣の方が気軽に立ち寄れる場所ではないので日常的に交流することは少ない。	近隣には地域住民がほとんどいないが、、訪問していただく機会を増やし、地域と日常的に繋がるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催により、現委員以前の委員たちの人数も徐々に増え、認知症の理解、協力などしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催しており、自治会長、婦人会長、民生委員、市職員、入居者家族、介護相談員にその都度状況報告し、助言していただき活動に生かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度確実に開催されている。状況報告と共に話し合いが行われサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族交流会にも参加していただきGHの様子をみていただいた。介護相談員の方にも参加していただいている。行政など解らないことがあると区役所に連絡している。	市役所職員は運営推進会議および家族交流会にも参加している。又、介護相談員の訪問もあり、実情を把握していただく中で、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関が公道に面しており、交通も危険なため玄関のみ常時施錠しているが、見学時、入居時に家族にも説明し理解していただいている。	職員は鍵をかけることの弊害は理解しているものの、帰宅願望の強い利用者もあり安全の為玄関の鍵は常時施錠している。できるだけ職員が同行したり、家族の協力を得たりしながら、利用者の思いに応じれるよう工夫している。	利用者一人ひとりの自由な暮らしをケアする為に、常時施錠している玄関の鍵をかけない工夫に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会の委員を通して身体や言葉の拘束等にも関心 意識を高め注意や防止に繋げている。認知症研修にも参加。お互い話合いを設けたり職員1人で長時間対応しない。入浴時の身体観察にも気をつけている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、一部職員のみ理解している。以前活用していた方もいたが、現在は必要者がいない。 今後学ぶ機会も必要と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、契約時に十分説明しており確認し、署名捺印していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時により良いケアをするには、気になることがあったら遠慮なく伝えてほしいと説明しており苦情申立ての相談機関などの連絡先も伝えている。	家族交流会は年2回実施されている。又、利用者の状況報告書を毎月送るなど丁寧な対応をしており家族に安心を与えている。ホームを訪問し易い雰囲気があり面会も多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回運営報告会があり、翌日必要な事は必ず職員に報告している。また、提案や問題についても話し合っている。	勉強会やカンファレンス、又、職員の自己評価を年2回実施、フイードバックしており、職員の意見を聞く機会を設けている。法人の運営報告会にて報告し話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回個々に自己評価を行いそれに基づいて評価、フィードバックなどしている。個々のいろいろな意見を聞き向上していけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH内ではチェックシートを作成し、個々の力量を把握している。法人内でも新人、中堅、フォローアップ研修などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部などの研修の時には情報交換をしているが同業者との勉強会や相互訪問などはしていない。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入浴後は目配り気配りを強化しており声かけも多くしている。困っていることや解らないことには繰り返し説明をしたり、標示をしたり、大きくしたりして混乱を防ぐようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前でも不安な事はいつでもTELしてほしいと伝えてあり、面会やTELの取り次ぎの仕方なども説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ハーモニーの方針、生活、対応など説明しているが、入居が適さない場合には他のサービスも説明し法人内の相談員に依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な掃除、洗濯、食事の準備・片づけ、入浴などは一緒に行っている。されてうれしい対応と嫌な対応を常に頭に置いて接するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を大切にし、家族の意向や本人の情報を得て、穏やかな生活ができるように家族と一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊はいつでも自由にしていただいている。次回も協力していただけるように声かけもしている。	アセスメントを丁寧にしており利用者のこれまでの暮らしや馴染みの関係などをよく把握し、家族の協力を得ながら共に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合いそうな、楽しく会話出来そうな同士を隣の席に座っていただいたり2・3階の方も1階へ自由に行き来している。食事の配膳下膳、洗濯たたみなども協力し合えている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られても手紙をくださったり、訪問して近況を知らせてくださったり、職員が面会に行くこともある。また、家族の相談にも応じることもある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の散歩、家事、趣味、外リハなど強制せず本人の意見を尊重しており、なるべく参加できるように考慮している。	利用者の暮らしのペース、そして意思を大切に自由に過ごせることを方針として掲げており、職員は日々実践に結び付けている。利用者の思うままの落ちついた生活ぶりや安心した表情からも伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にバックグランドアセスメント用紙3枚を記入していただき、経過や状況が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックをしており、カルテ記載、申し送り、回診にて全員が把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を伺いケアチェックを行いカンファレンス後それらに沿ったケアプランを作成している。家族にも面会、外出、外泊など協力をお願いしている。	利用者一人ひとりについてよくケアチェックを行いカンファレンス後、現状に即した介護計画を作成している。、家族や利用者との話し合いもよくされており、協力体制もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個々のカルテにその日の気付きを記載している。内容によっては、ケアプランに繋げていくこともある。月に1回以上ケアプラン内の介護経過の記載も義務づけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の診療所に受診ができ歯科衛生士の口腔ケアも定期的に受けることができる。老健、病院、特養への移動も可能である。月2回の理美容や行政の手続きも代行している。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々や定期的に訪ねて下さって歌や踊り、ハーモニカ、大正琴などで楽しませて下さっている。行事などにも参加できるように声をかけて下さる。消防署の協力で定期的な防災訓練も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する主治医に受診することはできるが、法人内の診療所にも受診可能。専門外の受診に関しては紹介状を作成し支援している。	入居前の主治医に受診することは継続してできる。毎日法人内診療所の医師が回診をしており、利用者一人ひとりの様子を確認している。歯科衛生士が常駐しており月２回歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	NS常勤し生活を一緒にする事で常に体調観察はしている。毎日のﾊﾞｲﾀﾙﾁｪｯｸ食事量や活動の変化、入浴時の皮膚・水虫のﾁｪｯｸなどｶﾙﾃ記載し介護職の気づきも必ず看護師に報告。休日夜間は老健NSが協力対応。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこちらでの状況、ｻﾏﾘｰを送付。帰所時もGHでの生活が可能か否か状況把握する為に退院直前に病院へ行き本人・病院職員より情報を頂く。常に相談室を通して情報交換を行い連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前よりGHでの生活の限界については説明している。医療行為が必要になった時、食事が取れなくなった時、一般浴槽に入れなくなった時、他入居者とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝがとれずGHでの生活に限界を感じるようになった時は日々のｶﾙﾃ記載を元に早めから家族に状況を報告。家族の意向も伺い主治医とも	事業所の方針については、入居時に丁寧な話し合いをして諒解を得るようにしている。体調変化があった時には家族に状況報告を頻繁に行い、次の施設の紹介や検討を主治医も含め行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や緊急時に対する事故訓練など定期的に学習しており、緊急時にはすぐに身体が動けるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	委員会メンバーの協力の元、定期的にいろいろな場面を想定した訓練が行われており職員が戸惑いなく避難、誘導できるように訓練している。消防署との訓練も行われている。	2か月に1回地震、火災、夜間等いろいろな場面を想定した訓練を行っている。半年に1回大規模地震訓練や消防署との訓練も行っている。	

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての心配り、敬意を忘れず自尊心を傷つけないような声かけや対応に心がけている。	個人記録は全てフロア一事務所に一括しておいてあり、取扱いの管理の徹底をしている。職員の利用者への言葉かけも本人の気持ちになっているような暖かみのあるものであった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切にし、意見希望を聞きながら日常生活を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の意見や希望を聞きできる限りそれぞれのペースに合わせた生活ができるよう生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回理美容を利用することができ、本人の望む髪型やパーマ、染めなどができる。家族に協力していただいて通い慣れた店に行っている方もいる。本人の気に入った衣類を着たり一緒に買物に行くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の配膳、盛り付け、片付け等、個々のADLに合わせ職員が一緒に行っている。週1回の食事作りには企画の段階から食べたい物を一緒に考えたり買物に同行している。楽しさを味わえるようにしている。	お茶とお味噌汁の配膳を利用者自身が行っていた。ゆっくり食べていた女性利用者が終わるのを待って、男性利用者が食器の片付けを手伝っていたり、テーブル拭きを率先して行っている姿も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日3食とおやつ2回の摂取量、水分量はｶﾙﾃに記載しており摂取量が少ない方に関しては、確保できるように声かけしたりと工夫している。Dr、NSの管理の下、個々の適正量を把握し確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内に歯科衛生士が常勤しており個々に合ったケア用品を使用しブラッシングなど毎食後必ず行っている。必要があれば受診なども家族の協力を得てすすめている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々のパターンを知りプライバシーや自尊心を傷づけたりしないようにトイレ誘導をしている。夜間はPトイレを使用し、個々に合わせた援助をしている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりのパターンをつかみ定時誘導している。失禁やパット類の減少や、トイレでの排泄がスムーズにできるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じ毎朝牛乳を飲んでいる方もある。毎日の散歩や体操を促し排便パターンに合わせたトイレ誘導や腹部のマッサージなど行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外15:30～17:00が入浴時間。回数や時間・ｼｬﾜｰ浴・下半身浴・足浴・清拭等希望や状況に合わせ無理なく楽しく入られるよう支援。色々な入浴剤や季節のしょうぶ湯、ゆず湯等も楽しんで頂いている。	広々とした浴室に個浴が2つあるため、仲の良い方同士で入浴したりしている。入浴剤を入れたり、季節感が感じられるようなゆず湯にしたりと、入浴が楽しめるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの個々の生活スタイルを崩さないように常に使われていた寝具などを用意してもらい安心して眠れるように工夫している。昼寝の必要な方には昼食後時間を設けて休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスに全記載あり。薬の変更や目的、副作用、用量についても必ず申し送りされ注意事項やその後の変化などについてはカルテ記載を義務づけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや生活習慣、趣味などを楽しく続けられるように援助している（ハーモニカ、折り鶴、そうじ、園芸など） 好きなコーヒーや菓子なども楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に応じるのは現在の勤務状況では難しい。毎日の散歩や月1・2回の外ﾘﾊ等で普段行かれないいちご狩りや観光地等へ出かけている。帰宅願望が強く不穏な入居者には家族に定期的な外出を依頼。外出、外泊は家人にもお願いしている。	日常的に法人内にあるリハビリ公園に出かけハーモニカを吹いたり、リハビリ階段で散歩をしたり、思い思いに過ごしている。帰宅願望の強い利用者については、家族や外部ヘルパーの定期的な協力も得ながら外出が出来る様支援している。	現在の勤務状況では難しいが、少しでも利用者一人ひとりに応じた外出支援が増える事を期待する。

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常はおこづかいとして一定の金額をお預かりしており、外リハや法人内の売店での買物の際には、個々に応じ自分で支払いなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも事務所の電話を使用し家族などにかけることができる。携帯電話を所持している方には操作などの援助をしている。手紙の受け渡しや必要物品の準備、代筆なども行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けや装飾などを行うことで季節を感じてもらったり、採光など暖色系を使用している。居室とトイレ、浴室、台所などの扉には表示をせず、色を変えて区別できるように工夫している。（家庭的な雰囲気を出すため）	利用者手作りの千羽鶴やちりめん細工が壁に掛けられている。職員のお手製の利用者のネームプレートが居室入口に飾ってあったり、居室とトイレなどの扉は色を変えて区別されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにTV、ソファーなど設置。玄関にもベンチがあり入居者同士おしゃべりしたり行動を共にしたり、触れ合う空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、今までの生活ｽﾀｲﾙをなるべく維持する為使用していた家具や身の回りの調度品等を持参頂き可能な限り同じような配置に心がけている。思い出深い物や家族の写真等落ち着ける雰囲気づくりをしている。	自分で作った刺し子のタペストリーや家族の写真が飾ってある。たんすや籐椅子など今まで使っていたものが置かれ利用者の居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ﾎｰﾙ、廊下には手すりを設置。杖ﾎﾙﾀﾞｰやﾍﾞｯﾄﾞのL字介助バーを使用し、使いやすさを工夫している。自室認知のできない方には自室前に大きめな字で表示したり、好みの装飾などでわかるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100919		
法人名	医療法人 社団 白梅会		
事業所名	グループホーム ハーモニー	ユニット名	2階
所在地	浜松市西区大人見町3028-1		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPubli

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4－1
訪問調査日	平成22年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日の散歩により風をひく方がほとんどなく、維持しており今後も続けていきたい。
・社会とのつながりを大切にするため、月1回以上の外リハを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的雰囲気の中、地域社会との繋がりを維持しながら、一日でも長く自分らしい生活ができるよう支援している。その人に合った生活リハビリと月1回以上の外食、外出を行っている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアが来所したり、地域の商店利用等行っているが、立地条件や歩道の不備により日常的な交流までは達することができない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個別に家族の相談に応じて対応しているが、地域に向けてはあまり行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の活動状況や取り組み、外出した所、行事、入退居状況等を報告し各委員から助言を頂きサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、家族交流会、必要時以外は取り組みを伝えられていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠のみは、大型ダンプが通っていくこともあり、入居者の安全のため施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	話し合いを通じ職員間で情報を共有し対応していっている。職員一人で同じ入居者に長時間対応しないよう配慮し、できるだけ他職員の目があるようにしている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者が現在いないが、必要となってくる入居者が増えてくると思われるため早急に活用できるよう職員全員が学べる機会を作っていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、面接時に説明を行い、契約前に文章で解りやすく説明し、解らないことがあればその事について説明し納得の上契約して頂くようにしている。その後も不明点、不安があれば連絡してもらうよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の相談窓口は重要事項説明書に記し、家人に説明している。家人、入居者の意見等は職員間で情報共有し、即時対応が必要なものは実施し、苦情時には記録票に記入し改善策を上げ実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の勉強会やカンファレンスを行い、業務改善や入居者の情報共有、問題解決等行っているが回数を増やしていく必要がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ半年毎に各職員が目標を持って働くことができるようになっており、努力している職員には給与にも反映できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の勉強会を行っている。法人内では月1回以上の勉強会を行い、法人外では各職員に合った研修への参加をすすめている。法人内で新人研修、中堅研修、フォローアップ研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時等の情報交換にとどまっている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えをよく聞き不安を取り除くことができるよう対応。困っている事、要望等からｹｱﾌﾟﾗﾝを作成し、職員が統一した声かけやｻｰﾋﾞｽを行っている。情報を細かく収集し、職員が本人の事を理解し接するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を受け入れ、施設長、担当職員を窓口の中心として相談しやすい環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とするサービスを職員間で検討し合い、他のサービス利用が適応と思われる場合は、そのサービスの説明を行い、他事業所や法人内相談員に依頼しサービス調整していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者からの意見をもとに楽しみを見つけ出していくように心がけている。困っている事があれば相談に乗り、一緒に解決策を見つける。生活ﾘﾊﾋﾞﾘ全般を行う中で気持ちを共有し職員であることを強く意識させない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人との関係が希薄にならないよう、本人の情報を伝えている。家族には面会、外出をすすめ、長時間一緒に過ごして頂き様子を知って頂いたり、買物、散歩等に参加してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊は自由にできるようになっている。入居者にも馴染みの人や場所の質問や傾聴をし、忘れないよう声かけをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに居室に遊びに行ったり自由に交流されている。孤立傾向の方には職員が間に入り共通の話題ができ、安心されるよう支援している。気持ちよく生活できるよう席の配慮をしている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入居となった方も時々施設、家族から情報を頂いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの意向をもとにサービスを提供している。嫌いな事には強制せず、好きな事、やってみたい事の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族にバックグランドアセスメントの記入を頂いており、入居後の生活の中でも本人の生活環境が適切か、家人、入居者に確認し調整して暮らしやすい環境となるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状況をカルテ記入し、日曜除く毎朝バイタル測定を行い、変化があればすぐわかる状態としている。1日の流れはあるものの個々に好きなように過ごしてもらい、職員が情報を共有把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家人の意向を伺い参加を頂ける家人にはカンファレンスに参加してもらっている。現状に即した介護計画を作成し、家人に確認をしてもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日状況を細かくｶﾙﾃに記載している。重要な事は看護介護日誌にも記載し共有しやすくしている。月1回以上介護経過を記載し、これらの情報をもとにケアカンファレンスを開いたり介護計画見直しに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の美容院、法人内の歯科衛生士と連携し必要時口腔内チェックを行える体制をとっている。色々な物を購入したい希望のある方には外部のヘルパーサービスを依頼している。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問や幼稚園への行き来等で、入居が楽しみを持って頂いているため支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家人が望む主治医に受診できるようにしている。法人内診療所も受診可能だが、専門外や特変が生じた場合紹介状を作成し、受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日曜除く毎日のバイタルチェック、入浴時皮膚観察を行い状態変化のみられる方は看護師に情報を伝えている。排泄、水分量、食事量のチェックも変化があれば看護師に報告していく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人が安心できるよう、様子伺いも含めて職員がお見舞いに行っている。病院関係者とは情報を密にとり、家人、本人と共に今後の方向性を話合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期の方の対応は行えていない。重度化する前に家族に状態報告を頻回にし、家族の意向を伺い次の施設等検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の知識はあっても訓練は定期的に行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヵ月に1回地震、火災訓練、夜間想定訓練も実施。車使用時の大規模地震訓練を半年に1回行っている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには特に注意を払い、人生の先輩であることを忘れず、自尊心を傷つけることのないよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から自然に希望が聞き出せるように働きかけている。入居者一人ひとりに合ったわかりやすい説明を行い、出来る限り自分で納得して行動を起こせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールしかなく各自の決定を尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までしていたおしゃれが継続できるよう支援している。馴染みの美容院へ希望される方は家族了承の下行っている。法人内美容院は月2回あり、希望者が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳は各自得意分野があり、やれる所を一緒にやって頂く。週1回の食事作りではやりたい方が集まって切る、混ぜる、盛り付ける等希望の場所をやってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量チェックを実施している。昔からの食事量や習慣を加味しても極端に食事量が少ない場合には職員が情報を共有し変化がないか様子をみていくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者が自力で磨いた後、職員が確認し必要な方には仕上げ磨きを行っている。一人ひとりに合った口腔ケア用品を準備し対応している。定期的に法人内歯科衛生士が口腔内点検を行っている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に誘導が必要な方は排泄ﾁｪｯｸ表を作成し、ﾊﾟﾀｰﾝや失禁をﾁｪｯｸし、ﾊﾟｯﾄ類使用を減らせ自立できるよう観察している。夜間帯の歩行が不安定な方にはﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙﾄｲﾚを設置し自力で行けるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩への呼びかけや牛乳の摂取等できるだけ薬に頼らないで排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜以外毎日入浴できるようにしている。仲の良い方同士で入ったり、一人でゆっくり入ったり時間的にゆとりを持って入っていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない範囲で、家庭で築いてきた生活リズムを生かし過ごしてもらっている。夜間帯安眠できているかの確認を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用している薬の作用、副作用、用法等を職員が理解した上で服薬管理している。内服確認を必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担になり過ぎることなくやれる役割を職員と一緒に行っている。散歩や行事、外リハ、カードゲーム、趣味的活動等で交流を図り気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外泊はいつでも可能であることを家族に伝えている。月1･2回外リハで外出機会を作っている。家族の参加も可能。散歩希望者は花の水やり、草とり、体操、歩行練習、歌等思い思いに過ごされている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には小遣いとして家族より預かり保管しているが、外リハや買物時、その都度出し、支払ができる方は支払をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が付き添い家族等への電話の手助けを行っている。手紙は家族了承の下、手紙がやりとりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的雰囲気の季節の飾りを廊下や居間に配置している。玄関付近に靴を履くため楽なように畳の縁台があり入居者同士のコミュニケーションの場となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ﾎｰﾙのTV前、ｿﾌｧｰに座ってふれ合っていたり、畳ｽﾍﾟｰｽに座ったりされている。ﾎｰﾙの椅子は場所を決めてあるためどこに座っていいかわからないという心配もなく決まった席に座って物思いにふける方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで馴染んできた家具や寝具、写真、雑貨等好きなように配置していただいている。取り組んできた趣味的な物や工作物も自由に飾り自分の部屋らしく居心地がよく感じられるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	EVは使える方は自由に使用。各部屋に自分なりのﾏｽｺｯﾄを飾ったり、ﾈｰﾑﾌﾟﾚｰﾄをつけたり解りやすくされている。浴室はｽﾍﾞﾘ止ﾏｯﾄを使用。ﾄｲﾚ、廊下は手すりがあり床はﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ。動線には物を置かないよう配慮。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100919		
法人名	医療法人 社団 白梅会		
事業所名	グループホーム ハーモニー	ユニット名	3階
所在地	浜松市西区大人見町3028-1		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPubli

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4－1
訪問調査日	平成22年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、GH独自の理念を掲げ、GH内に掲示している。又、職員は年間目標を設定し実践できるように努力を重ねている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニットの評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の発表会や花見等に招待され参加したり、お祭時には太鼓が来てくれ見学させてもらっている。また、散歩時、近隣住民の方と気軽な挨拶が交わされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時、非常時には法人内にあるリハビリ公園を地域の人達にも開放を考えている。非常食、ストーブ等の用意、汲み取り式トイレの設置している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い、報告・意見交換をし助言をして頂いている。会議内容は全職員に伝達され会議時に議題となることがあり。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課職員に運営会議への参加をお願いしその際ホーム内を見ていただいている。家族交流会への招待も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状として玄関の施錠を行っている。随時、外出を希望する入居者と外出している。スピーチロックを含め、代替ケアを考え安易に拘束をしないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会や話し合いをし、職員間で情報を共有し対応するようにしている。職員一人で長時間対応する事がないように配慮している。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、一部職員のみ理解出来ている。今後、学ぶ機会を検討。以前活用していたが、現在必要と思われる方がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、面接時、契約時に文章及び口頭で説明を行っている。理解されている事を確認の上、署名をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等の色々な情報は職員に申し送りやカンファレンス等で伝達をし話し合いをしている。苦情申し立ての相談機関などの連絡先も伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やカンファレンス時に入居者の情報や問題、提案、解決方法等を話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と年2回程度、個人面接する機会あり。その際、自己評価と自己目標を掲げてもらっている。又、率直な意見を聞き改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH内、法人内での勉強会（月1回）あり。法人内で新人、中堅、フォローアップ研修を行っている。外部研修は参加できる範囲で随時参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、施設内、職場毎に研修課題を決め、それぞれ研修した事を全職員に向け発表し、勉強して介護の質の向上につなげている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、家族より入居に至る経緯を詳しく聞き見学時、説明しながら本人と共に今後の生活について話を聞いてもらっている。又、入居後、本人と会話をする機械を作りよく聴き受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にバックグランドアセスメントを行い生活特性を出来る限り家族に書いていただき初期の面会時にできるだけ機会を多くして頂き情報交換、意見を受け止める態勢を整えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当GHの方針、生活、対応等説明している。適応と思われない場合は他サービスの説明をし、法人内の相談員に依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや居室掃除、洗濯などの生活リハビリを一緒に行い、出来る事を少しでも多く見つけ参加してもらい協力、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族と過ごす様子を聞いたり、GH内での生活を家族に話したりしている。又、家族に面会等依頼する事もあり。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊など基本的には自由。家族の要望により面会制限がない限り家人、親戚、友人、知人などとも拒否なく会って頂いており、帰りの際には次回の面会もお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの理解の下、居室への行き来あり、自由に交流している。中には孤立するのではなく独りで静かに過ごされている方もいる。本人の希望に沿うように努めている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内のサービス利用者と散歩時や行事時等に交流あり。又、相談窓口が法人内にあり、いつでも相談に来られるようになっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の散歩、家事、習い事、外リハ、行事イベント等あるが、強制せず、本人の意向を尊重し、参加出来るもので考慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、バックグランドアセスメントを家人に詳しく書いてもらっている。本人、家人から話を聞き生活の中に取り入れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録や健康チェック、毎日の申し送りにて把握するようにしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家人の意向を優先し、その内容と課題を反映したケアプランを作成。3ヶ月毎の見直しをしている。又、変化が生じた場合もアセスメントし、プランの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、本人の生活状況等をカルテ記載し、必要事項は全職員に申し送っている。月末にはプランの実践状況経過を介護経過として記載する事を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部ヘルパーへ依頼し、本人が希望する美容院、食事等の外出をしている。国外にいる家人希望あり、ネットTEL通信している。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方達が頻回に訪れてくれ歌や踊り等を行ってくれたり、祭り等の地域行事に参加している。又、消防署の協力の下、定期的に防災訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家人が望む主治医に受診が出来るようにしている。常は隣接している診療所に受診するが詳しく診てもらいたい時、特変が生じた場合は家族の付き添いのもと受診して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤NSに毎日状態報告や相談を行っている。夜間はTELにて指示を仰ぎ、必要に応じて施設内のNSに協力、連携態勢が即可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者、職員で千羽鶴を折り、お見舞いを兼ね治療状況等情報を収集し、本人、家人と会話する時間を設けている。家人、代表者、相談室と密に連携を取り合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設内診療所Dr、本人かかりつけDr、家人を交え今後について検討を行っている。レベル変化がみられる時は家人との連携を密に行い現状把握して頂き、今後の行き先について相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人研修時に一通り学び、演習する。その後も全職員を対象に勉強会や自己対応訓練が定期的にあり。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が対応出来るように勤務調整し行っている。地域の消防署との定期的な訓練や市の介護保険課の職員と災害時の対応について検討する機会がある。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉遣いや対応の仕方に気をつけ、自尊心を傷つけないように注意している。記録等の個人情報の取り扱いの徹底管理をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との信頼関係が結べるように誠実な対応を常に心がけ、利用者に合わせた声掛けや説明を行い自己決定して頂き納得しながら暮らせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	参加しやすいように声掛けを多く、各自の決定を尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家人の理解、協力の下、愛着ある洋服や化粧品を使用している。法人内に美容室があるが馴染みの店に行っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回食事作りあり。季節や食べたい物を考慮し、献立になっている。一人ひとりに見合う活動をして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Dr、NS、DT管理の下、その人適正量を確保している。毎食、食事量、水分量チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内に常時DH在籍。DH指導の下、個々に合ったケア用品を使用し、ブラッシングをしている。勉強会あり。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導が必要な方には排泄チェック表を作成し、介助を行っている。パターンがつかめたら個々に合わせた誘導時間、おむつの種類を変更等している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じ毎朝牛乳やヨーグルトを飲食している。毎日の散歩時、体操を促したり排便周期に合わせトイレ誘導し、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜から土曜の毎日、入浴が出来るようにしている。本人のペースに合わせ見守り、介助を行っている。入浴剤を入れたり、季節のゆず湯にしたり、楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活スタイルを崩さないように好みの寝具を用意してもらい安心して休めるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスに記載あり。薬の変更時、目的、副作用、注意観察点の申し送りをしている。NS、薬剤師による勉強会あり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道、歌、お菓子作り、裁縫等、各々の得意分野が行えるように支援している。又、好みの紅茶、コーヒー、お菓子等を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在の職員態勢では1対1で法人外の希望場所に出かけるのは難しい。家人に付き添いや外部ヘルパーに依頼し、出かけられるように支援している。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月1回の外リハや法人内での売店の買物は予算を決め、個々に合わせ会計、管理をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時、電話の貸し出しや携帯を持っている方は操作援助をしている。手紙の受け渡し（ポストへ）や物品準備や希望者には代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを行っている。トイレや居室は扉の色を変えることで区別している。クリーム色を基調とし、大きな窓を設け遮光カーテンを取り付けてある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食道の椅子は各自決まっており、ホールにはソファー、畳スペース、コタツ等自由に過ごすことが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活スタイルや環境が維持できるよう特に持ち込みの制限をしていない。大切な人の写真や家族との思い出品等を置き、落ち着ける雰囲気になるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	起立動作が出来るようベッドに介助柵や杖を使いやすく決まった場所におく事が出来るよう杖ホルダー等の工夫を行っている。		